

# 2023 年度 日本都市計画学会全国大会 開催報告

谷本 真佑 東北支部総務企画委員／岩手大学

## 1. はじめに

2023年11月10日（金）～12日（日）、2023年度日本都市計画学会全国大会が岩手大学を中心に開催された。本稿では大会の様子を報告する。

## 2. 【1日目】 エクスカーションおよびシンポジウム

### (1) エクスカーション（宮古市・盛岡市）

エクスカーションは2コースが企画された。岩手県宮古市での復興まちづくりの状況を見学するコースでは、姥浦道生先生（東北大学）と福留邦洋先生（岩手大学）に引率いただき、東日本大震災津波の遺構「たろう観光ホテル」や、宮古市田老地区の街並みが一望できる眺望公園などを見学した。盛岡市内を徒歩で巡るコースでは、あいにくの雨模様ではあったが、盛岡市中心部に今も残る近代西洋風建造物や盛岡城跡公園（岩手公園）など、現地ガイドによる解説を聞きながら見学した。

### (2) シンポジウム①：都市「盛岡」の形成～この魅力はなぜ生まれたか～

シンポジウム①は、盛岡駅西口の複合施設「アイーナ」で開催された。盛岡市都市整備部・滝村敏道次長からの話題提供ののち、各々の立場から盛岡市内のまちづくりに携わる5名のパネラーを交えたディスカッションが行われた。総合司会の宇佐美誠史先生（岩手県立大学）やコメントーターの南正昭先生（日本都市計画学会副会長・岩手大学）とのやり取りの中で、今後の地方都市の可能性について議論が交わされた。当日は雨模様であったが、140名のご参加を賜った。

## 3. 【2日目】 研究論文発表会・シンポジウム・懇親会

### (1) 研究論文発表会

2日目からは会場を岩手大学上田キャンパスに移した。研究論文発表会では各会場で活発な意見交換が交わされ、立ち見が出るほどの盛況を博するセッションも見られた。本大会では会場の様子をオンラインで配信し、発表者・司会者・参加者の皆様にご迷惑をおかけする場面も一部あったものの、皆様のご協力により、最大で8会場の同時配信を行うことができた。配信に際し、東北支部事務局（岩手大学理工学研究科博士課程）の川下亨氏にご尽力頂いたことを申し添える。

### (2) シンポジウム②：過去から未来へーあなたが経験するかもしれない未来の災害復興に向けてー

シンポジウム②は、1. 東日本大震災からの復興 2. 次の災害復興への備え 3. パネルディスカッション の3部構



写真 2023年度全国大会の様子  
（左：2日目 シンポジウム② 右：2日目懇親会）

成で行われた。秋田典子先生（千葉大学）による進行のもと、第1部では姥浦道生先生と南正昭先生より、第2部では大野和彦様（国土交通省）、市古太郎先生（東京都立大学）、牧紀男先生（京都大学）、加藤孝明先生（東京大学）より、それぞれの立場からの情報提供や問題提起などを頂戴した。第3部では、各先生をパネリストとするディスカッションが行われた。聴講した学生スタッフからは「固定的なマニュアル対応を決めることも大切だが、環境等に応じた変化も重要」「地域性を踏まえた【そのまち独自の計画】を丁寧に策定する事が犠牲者ゼロの第1歩と感じた」「外部から何かを持ち込むのではなく、中の人たちが起き上がろうとする力をサポートするとのポリシーに関わることは大事な考え方」などの感想が聞かれ、今後の防災を担うであろう学生にも学ぶ点が多々あった様子が伺えた。

### (3) 懇親会

懇親会は、盛岡駅付近にあるホテルメトロポリタン盛岡 NEWWING にて開催された。森本章倫会長（早稲田大学）からの挨拶では、本学会の設立主唱者の一人である石川栄耀先生が現在の盛岡第一高校の出身であるとの紹介がなされ、続く乾杯では盛岡一高の卒業生である内舘茂市長の音頭で懇親会の幕が開けた。参加者は当初想定を上回る174名に上り、会は大いに盛り上がった。

## 4. 【3日目】 研究論文発表会・報告会・ワークショップ

大会3日目は、初冬の寒さに加え降雨があったものの、それでは冷めやらぬ熱心な意見交換や議論がなされている様子が伺え、それらは午後の報告会とワークショップまで続いた。

## 5. おわりに

本大会には508名の現地参加を賜った。準備・進行にあたり、学会本部事務局の山本様・吉田様・小山様、運営にご協力頂いた東北支部幹事の先生方、学生スタッフのみなさま、そしてご参加頂いたみなさまに厚く御礼申し上げます。